

中期目標期間（平成18年度～平成22年度）

公立大学法人 業務実績評価書

平成23年9月

福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

中期目標期間評価（暫定評価）の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
（1）全体評価	-----	2 ページ
（2）項目別評価	-----	4 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
（1）全体評価	-----	9 ページ
（2）項目別評価	-----	11 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
（1）全体評価	-----	17 ページ
（2）項目別評価	-----	19 ページ

中期目標期間評価（暫定評価）の考え方

1 中期目標期間評価（暫定評価）の対象期間

中期目標期間（平成18年度から平成23年度までの6年間）のうち、平成18年度から平成22年度までの5年間

2 中期目標期間評価（暫定評価）の目的

中期目標期間の業務実績評価（以下「中期目標期間評価」という。）の評価結果を、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等の検討に資するため、中期目標期間の終了前に中期目標期間評価の暫定的な評価を行うもの。

3 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価、情報公開、大学改革の推進（公立大学法人福岡女子大学のみ））ごとに、中期目標の達成状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- | |
|--|
| <p>5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
4：中期目標の達成状況が良好である。
3：中期目標の達成状況がおおむね良好である。
2：中期目標の達成状況が不十分である。
1：中期目標の達成のためには重大な改善事項がある。</p> |
|--|

4 全体評価

項目別評価を踏まえ、中期目標の達成状況全体を総合的に評価する。評価は、業務の実施状況、財務状況、法人のマネジメントの観点から、記述式で行う。

組織や業務運営等に係る改善すべき事項があれば記載する。

※ 評価委員会の評価は、各法人が中期計画において設定した業務実施の計画や達成目標等を踏まえて行なったものであり、法人間の相対評価をしめすものではない。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、先端的な歯科医療の知識・技術を教授するとともに、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成することを最も重要な使命としている。

今回実施した中期目標期間評価の暫定評価は、平成18年度に法人化し、6年間の中期目標期間が平成23年度に終了することに伴い、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等についての検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に、中期目標期間の業務実績について暫定的な評価を実施したものである。

具体的には、中期目標期間の4年経過時における中期目標の達成状況を基本として、中期目標期間の5年度目である平成22年度の業務実績の評価結果及び認証評価機関の評価結果を踏まえて実施した。

なお、平成23年度までの6年間の業務実績については、中期目標期間終了後にあらためて評価結果を確定させることとしている。

評価の結果、中期目標項目7項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価、情報公開）について、中期目標の達成状況が「良好である」又は「おおむね良好である」と評定した。

理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めており、中期目標の達成状況は、全体としてはおおむね良好であると認められる。

なお、平成22年度に受審した認証評価においては、大学の教育研究活動等の総合的な状況について、「大学評価基準を満たしている」と評価されている。また、併せて受審した選択的評価事項である「研究活動の状況」及び「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」について、「目的の達成状況が良好である」と評価されている。

今回の暫定評価を通してあらためて確認した課題及び今後の取り組むべき方策については、課題解決に向けた組織的対応を更に推進し中期目標の着実な達成に努めるとともに、次期中期目標・中期計画の策定に反映され、法人の継続的な質的向上に資するものとされたい。

歯科医療の高度化や高齢社会の進展など、歯科保健医療を取り巻く環境や社会的ニーズが変化している中、九州歯科大学は大学の個性・特色を一層明確にし、将来にわたって県民の期待に応える魅力ある大学づくりを更に推進されることを期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務については、中期目標の達成状況が良好であると認められる。

教育について、歯科基礎教育科目の統合化を進め、態度教育の充実、技術教育の効率化を図るカリキュラムの再編に取り組んでいる。平成22年4月に開設した口腔保健学科の歯科基礎科目については、歯学科との合同授業を行い質の向上を図っている。

専門教育については、専門医療及び先進医療に関する臨床実習の増加を図るなど、臨床実習システムの継続的な見直し・改善に取り組んでいる。

また、FD活動（※）の充実や「同僚による授業評価」の全科目導入等、教員の教育能力の向上に努めている。

今後も、教育内容の一層の充実を図り、優秀な歯科医師及び歯科衛生士の育成に努められたい。

社会貢献については、e-learningによるリカレント教育のコンテンツ公開を本格稼働しており、今後の更なる充実を期待する。

また、地域に対する歯科保健医療活動など、公立大学として、社会貢献に関するより積極的な事業の展開を期待する。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

3 財務状況

財務については、中期目標の達成状況がおおむね良好であると認められる。

e-learningによるリカレント教育の有料化に計画の遅れがあるものの、患者紹介率の向上等による診療報酬の確保や外部研究資金の獲得に積極的に取り組むなど自己収入の増加に努めるとともに、業務の見直し等による経費の抑制に取り組んでおり、一定の成果が認められる。

今後とも継続的な経営改善に努めるとともに、適切な予算管理と戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。

4 法人のマネジメント

業務運営、評価、情報公開といった法人のマネジメントについては、中期目標の達成状況が良好であると認められる。

理事長のリーダーシップの下、運営体制の整備、事務処理の効率化、任期制実施、教員個人業績評価の実施と給与への効果的な反映等、法人化のメリットを活かした取組を着実に進めている。

今後とも、事務局機能の強化等運営体制の改善を図るとともに、適切な評価の実施、情報公開の推進に努められたい。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成

- ・専門医療及び先進医療に関する臨床実習の増加を図るなど、臨床実習システムの改善に取り組んでいる。
- ・成績評価基準の明確化や修学状況を把握する体制の構築など、厳格な成績評価の実施に努めている。また、成績不振等学生について保護者説明会を北九州及び東京で開催するなど積極的な取組を行っている。
- ・九州工業大学と歯学・工学を融合させた領域の教育を行う大学院連携を開始し、単位互換を実施している。
- ・FDを通して教育方法の改善を図るなど、素養教育の充実に努めているが、学生による授業評価は全般的に低く、授業満足度向上のための分析及び取組が必要である。

(2) 適性のある優秀な人材の確保・育成

- ・AO入試（※）を導入するなど、高い志を持った優秀な学生の確保に努めている。
- ・オープンキャンパスの内容の充実、高校訪問及び入試説明会の増加など広報活動の充実に努めている。

※AO入試（アドミッション・オフィス入試）

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する方法

(3) 教育の質の改善

- ・FD活動への教員参加率が向上するなど、FDの推進に努めている。今後もより効果的なFDを実施し、教員の教育能力の向上に一層努められたい。

(4) 学生への支援

- ・「学生意見箱」や「なんでも相談室」を設置し、学生の意見を取り入れる制度を導入し、図書館の利用時間を延長するなど、修学環境の改善等に努めている。
- ・口腔保健学科の学生の就職支援体制の構築に努めており、今後の積極的な取組に期待する。

2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・研究成果に基づいた、また、若手研究者の育成に注力した研究費の配分、研究活動の事後評価・検証システムの構築、事務局による外部研究費情報の提供等、研究推進に取り組んでいる。論文数、学会発表数、特許・実用新案権件数、外部研究資金獲得件数が目標を上回っており、取組の成果として評価する。

3 社会貢献

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・e-learningによるリカレント教育の「Q-shidaiゼミ」について、15本のコンテンツを公開している。今後も内容の充実を図り、利便性を向上させることを期待する。
- ・社会貢献活動を総括する社会貢献委員会の下に、地域貢献、産学連携、自治体連携、国際協力、病診連携の各行動推進室を設置し、取組を推進している。

4 業務運営

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・会計事務の業務委託や附属病院の診療費未収金回収等のための専任嘱託職員の配置等による事務局体制の整備・機能強化、任期制実施、教員個人業績評価の実施・改善と給与への効果的な反映等、運営体制の改善と人事の適正化に努めている。
- ・安全対策及び医療事故防止対策に係る委員会等の設置、各種講習会等の実施、実習での事故防止対策事例集作成、附属病院におけるヒヤリハット事例の周知徹底等、安全管理体制の充実に努めている。なお、防災計画については早急に策定する必要がある。

5 財務

評価	3：中期目標の達成状況がおおむね良好である。
----	------------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画の取組が不十分である項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり実施していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・患者紹介率の向上等を図り、診療報酬の確保に努めている。
- ・外部研究資金の獲得に努め、数値目標を上回る実績をあげている。
- ・会計事務の外部委託や業務見直しによる時間外勤務手当の削減等、人件費抑制に努めた結果、数値目標を上回る実績をあげている。
- ・e-learningによる収入を予定していたが、有料化に至っていない。

6 評価

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価の実施・公表及び外部評価機関の評価結果の大学運営への反映等、厳正な評価の実施と評価結果の活用に努めている。

7 情報公開

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ホームページの運用管理体制を確立し、内容の充実を図っている。
- ・個人情報保護及び情報公開に関する研修会を実施するなど、個人情報保護に関する教職員の意識向上に取り組んでいる。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人福岡女子大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、職場、家庭、地域など社会の様々な分野において重要な役割を担うことができる優秀な女性を育成することを最も重要な使命としている。

今回実施した中期目標期間評価の暫定評価は、平成18年度に法人化し、6年間の中期目標期間が平成23年度に終了することに伴い、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等についての検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に、中期目標期間の業務実績について暫定的な評価を実施したものである。

具体的には、中期目標期間の4年経過時における中期目標の達成状況を基本として、中期目標期間の5年度目である平成22年度の業務実績の評価結果及び認証評価機関の評価結果を踏まえて実施した。

なお、平成23年度までの6年間の業務実績については、中期目標期間終了後にあらためて評価結果を確定させることとしている。

評価の結果、中期目標項目8項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価、情報公開、大学改革の推進）について、中期目標の達成状況が「良好である」又は「おおむね良好である」と評定した。

理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めるとともに、平成23年4月の新学部開設をはじめとした大学改革に取り組んでおり、中期目標の達成状況は、全体としてはおおむね良好であると認められる。

なお、平成22年度に受審した認証評価においては、大学の教育研究活動等の総合的な状況について、「大学評価基準を満たしている」と評価されている。また、併せて受審した選択的評価事項である「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」について、「目的の達成状況が良好である」と評価されている。

今回の暫定評価を通してあらためて確認した課題及び今後の取り組むべき方策については、課題解決に向けた組織的対応を更に推進し中期目標の着実な達成に努めるとともに、次期中期目標・中期計画の策定に反映され、法人の継続的な質的向上に資するものとされたい。

新学部開設により新しく生まれ変わったとも言える福岡女子大学は、今多くの注目を集めている。理事長のリーダーシップの下、全教職員が大学改革の理念と目標を共有し、県民の期待に応える魅力ある大学づくりを更に推進されることを期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献、大学改革の推進に関する業務については、中期目標の達成状況がおおむね良好であると認められる。

教育について、「男女共同参画社会を目指すキャリア教育」が、文部科学省の平成19年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択されており、キャリア教育の充実に積極的に取り組むとともに、就職関連講座の拡充やキャリアコンサルティングの回数の増加等、就職支援の充実強化に努めている。また、九州大学、西南学院大学との三大学連携協力に関する基本協定に基づき、九州大学大学院オートモーティブサイエンス専攻に参画するなど、他大学との連携事業による教育研究活動等の向上を図っており、今後の一層の発展に期待する。

一方で、管理栄養士国家試験合格率の低下や、学生アンケート方法の改善の遅れ等、計画が十分に実施されていないものについては早急な取組が必要である。

大学改革の推進については、海外の有力大学との学術交流協定締結を進め、留学生の受入・派遣体制の整備・充実を行い、受入・派遣数ともに増加していることを評価する。

新しい時代にふさわしい福岡女子大学となるべく改革の実現に向けて、着実に前進されることを期待する。

3 財務状況

財務については、中期目標の達成状況が良好であると認められる。

教育研究等に関する競争的外部資金の獲得に積極的に取り組むなど自己収入の増加に努めるとともに、業務の見直し等による経費の抑制に取り組んでおり、一定の成果が認められる。

今後とも継続的な経営改善に努めるとともに、適切な予算管理と戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。

4 法人のマネジメント

業務運営、評価、情報公開といった法人のマネジメントについては、中期目標の達成状況が良好であると認められる。

理事長のリーダーシップの下、運営体制の整備、事務処理の効率化、任期制実施、教員個人業績評価の実施等、法人化のメリットを活かした取組を着実に進めている。

今後とも、事務局機能の強化等運営体制の改善を図るとともに、適切な評価の実施、情報公開の推進に努められたい。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3：中期目標の達成状況がおおむね良好である。
----	------------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画の取組が不十分である項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり実施していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 教養教育

- ・職業キャリア導入教育を含むキャリア教育プログラムが文部科学省の平成19年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択されている。また、就職関連講座の拡充やキャリアコンサルティングの回数的大幅な増加など、キャリア教育及び就職支援の充実強化に努めている。
- ・ボランティア活動に対する単位認定制度は目的や内容が明確でなく改善が必要である。

(2) 専門教育

- ・人間環境学部において、管理栄養士国家試験合格率が低下しており、合格率向上のための取組が必要である。

(3) 大学院教育

- ・四大学（福岡工業大学、九州大学、西南学院大学、福岡女子大学）が連携した「国公私立大コンソーシアム・福岡」の一環で、

単位互換を実施している。

(4) 教員の教育能力の向上

- ・学生の授業アンケートの回収率が低く、早急な取組が必要である。
- ・FD活動(※)については、教員間の情報共有・情報交換の取組を進め、教員の教育能力の向上に一層努められたい。

※FD (ファカルティ・ディベロップメント)

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

(5) 優秀な学生の確保

- ・高校訪問件数や入試説明会回数の増加、オープンキャンパスに加え学校見学会を実施するなど、入試広報活動の強化に取り組んでいる。

(6) 成績評価

- ・GPA制度(※)については、平成22年度に制定した運用基準に基づく有効な活用と成果を期待する。

※GPA制度 (GPA=グレード・ポイント・アベレージ)

授業科目ごとの成績評価を5段階(A, B, C, D, E)で評価し、それぞれに対して、4, 3, 2, 1, 0のグレード・ポイントを付与し、この単位あたり平均を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度

(7) 学習及び就職支援体制の整備

- ・補習授業の実施、教職員による企業訪問、既卒者(未就職者)に対する就職斡旋等、学生に対する支援に努めている。

2 研究

評価	4 : 中期目標の達成状況が良好である。
----	----------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・学外の研究機関との研究交流や産学官連携の推進等に努めている。
- ・産学官地域連携センターが中心となり、電子メールによる外部研究資金の情報提供、科学研究費補助金申請の学内説明会など、研究支援を実施している。外部研究資金獲得額が目標を上回っており、取組の成果として評価する。

3 社会貢献

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・高校への出張講義や高校生向けの体験授業を積極的に実施している。
- ・大学院において長期履修制度を導入し、社会人を受け入れる学習環境の整備に努めている。
- ・福岡女子大学が主体となる、産学官連携組織「福岡発食育&食環境整備ネットワーク」の事業が農林水産省の平成20年度「にっぽん食育推進事業」に選定され、教員と学生が連携して食事バランスガイドの普及や食育の推進に取り組んだ。
- ・国際交流を推進し、受入留学生が大幅に増加したことやJ D - M a t e等の留学生の支援制度の充実に取り組んでいることを高く評価する。

4 業務運営

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・会計事務等の外部委託や、国際交流及び広報の専門職嘱託職員の採用等による事務局体制の効率化・強化、任期制実施、教員個人業績評価の実施等、運営体制の改善と人事の適正化に努めている。なお、教員個人業績評価については、制度の目的に沿った、より適切なものとなるよう改善を図られたい。
- ・安全衛生に関する各種講習会等の実施、安全マニュアル（実験用）の改訂、毒劇物の取扱指針・薬品保管庫使用要領の作成、保健・カウンセリング体制の強化等、安全衛生管理の充実に努めている。

5 財務

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、数値目標を上回る収入実績をあげている。
- ・非常勤講師の活用、特任教授制度の活用等により人件費抑制に努めた結果、数値目標を上回る実績をあげている。
- ・宅急便やメール便の活用により通信運搬費の節減に努めた結果、数値目標を上回る実績をあげている。

6 評価

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価の実施・公表及び外部評価機関の評価結果の大学運営への反映等、厳正な評価の実施と評価結果の活用に努めている。

7 情報公開

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・新学部開設に向け、広報体制を強化し戦略的な広報活動を行っており、携帯電話ホームページの開設や学校見学会の新規開催など、新たな広報活動に積極的に取り組んでいる。
- ・個人情報保護に関する講習会を実施するなど、教職員の意識向上に取り組んでいる。

8 大学改革の推進

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・平成22年度までに海外の有力大学12校と学術交流協定を締結しており、留学生の受入・派遣が増加している。今後の更なる国際化の推進を期待する。
- ・新学部の入試において、新たに推薦入試、外国人特別選抜試験を実施し、また、積極的な入試広報活動を行い、優秀な学生の確保に努めていることを評価する。
- ・新学部の開設を記念して、平成22年11月に記念シンポジウムを開催し、300名を超える参加者を得ている。
- ・平成23年2月に立命館アジア太平洋大学と連携協力に関する基本協定を締結しており、相互の特色を活かした連携の推進に期待する。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質をもった優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

今回実施した中期目標期間評価の暫定評価は、平成18年度に法人化し、6年間の中期目標期間が平成23年度に終了することに伴い、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等についての検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に、中期目標期間の業務実績について暫定的な評価を実施したものである。

具体的には、中期目標期間の4年経過時における中期目標の達成状況を基本として、中期目標期間の5年度目である平成22年度の業務実績の評価結果及び認証評価機関の評価結果を踏まえて実施した。

なお、平成23年度までの6年間の業務実績については、中期目標期間終了後にあらためて評価結果を確定させることとしている。

評価の結果、中期目標項目7項目中2項目（社会貢献、財務）について、中期目標の達成状況が「非常に優れている」と評定、他の5項目（教育、研究、業務運営、評価、情報公開）について「良好である」と評定した。

理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めている。特に社会貢献に関しては、地域住民の健康・福祉の向上のための取組を積極的に展開しており、中期計画を上回る取組が多数認められたところであり高く評価する。また、財務に関しても、外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、数値目標を大幅に上回る収入実績をあげていることを高く評価する。以上のことを踏まえ、中期目標の達成状況は、全体としては良好であると認められる。

なお、平成22年度に受審した認証評価においては、大学の教育研究活動等の総合的な状況について、「大学評価基準を満たしている」と評価されている。また、併せて受審した選択的評価事項である「研究活動の状況」について「目的の達成状況が良好である」と評価され、「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」について「目的の達成状況が非常に優れている」と評価され

ている。

今回の暫定評価を通してあらためて確認した課題及び今後の取り組むべき方策については、課題解決に向けた組織的対応を更に推進し中期目標の着実な達成に努めるとともに、次期の中期目標・中期計画の策定に反映され、法人の継続的な質的向上に資するものとされたい。

少子高齢化やグローバル化の進展など、大学を取り巻く社会環境が変化する中、福岡県立大学は大学の個性・特色を一層明確にし、将来にわたって県民の期待に応える魅力ある大学づくりを更に推進されることを期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務については、中期目標の達成状況が良好であると認められる。

教育について、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が、平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」が、平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」が選定されており、教育内容の充実に積極的に取り組んでいる。

福岡県立大学の教育の特色となる人間社会学部と看護学部の連携による他の専門領域を学べる教育プログラムについても、内容の充実を図り、受講者が大幅に増加するなど、着実な進捗が認められるところであり、今後の一層の発展に期待する。

社会貢献については、地域住民の健康・福祉の向上のための各種健康教室や資格・免許保持者へのリカレント教育、不登校・ひきこもりサポートセンターにおけるキャンパス・スクールや相談事業等、社会貢献・ボランティア支援センターにおける大学、学生及び地域が連携した社会貢献活動の支援等に積極的に取り組んでおり、高く評価する。福岡県立大学は設立当初から地域振興の役割も担っており、地域に開かれた大学として着実な成果をあげている。

今後も地域との連携のもと、社会貢献活動に積極的に取り組まれることを期待する。

3 財務状況

財務については、中期目標の達成状況が非常に優れていると認められる。

教育研究等に関する競争的外部資金の獲得に積極的に取り組むなど自己収入の増加に努めるとともに、業務の見直し等による経費の抑制に取り組んでおり、一定の成果が認められる。特に平成21年度以降は大型の教育等に関する外部資金の獲得により数値目標

を大幅に上回る実績をあげており、高く評価する。

今後とも継続的な経営改善に努めるとともに、適切な予算管理と戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。

4 法人のマネジメント

業務運営、評価、情報公開といった法人のマネジメントについては、中期目標の達成状況が良好であると認められる。

理事長のリーダーシップの下、運営体制の整備、事務処理の効率化、任期制実施、教員個人業績評価の実施等、法人化のメリットを活かした取組を着実に進めている。

今後とも、事務局機能の強化等運営体制の改善を図るとともに、適切な評価の実施、情報公開の推進に努められたい。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 教養教育の充実

- ・教養演習テキストについて、学生による編集委員会を設置し、学生の意見を取り入れた「レポートの書き方入門」を出版するなど、教養演習の工夫・改善に努めている。

(2) 専門教育の充実

- ・両学部の連携による他の専門領域を学べる教育プログラムを導入し、受講者が増加している。

- ・「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定された。
- ・「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」が、文部科学省の平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に選定された。
- ・「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」が、文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に選定された。

(3) 教員の教育能力の向上

- ・学部のFD活動（※）に加え、大学院のFD活動にも取り組むなど、FD活動強化への積極的な取組が認められる。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

(4) 学生の確保

- ・オープンキャンパス、入試説明会、高校訪問、出前講義等の入試広報活動について数値目標を上回って実施しており、また、入試会場として新たに鹿児島会場を設けるなど、質の高い学生の確保に積極的に取り組んでいる。

(5) 成績評価

- ・看護師をはじめとする各種国家試験合格率の向上に努めており、高い合格率を維持していることを評価する。

(6) 学生への支援

- ・キャリアサポートセンターのスタッフ配置日数の増加及び利用促進、インターンシップ参加者や各種就職ガイダンスの拡充等、就職支援体制の強化に努めている。

2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において、生涯福祉研究センター（人間社会学部）、ヘルスプロモーション実践研究センター（看護学部）の独自の研究プロジェクトや両学部連携による共同研究プロジェクトに積極的に取り組み、数値目標を上回る実績をあげている。

3 社会貢献

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や中期計画に掲げる事項以外にも社会貢献に関する積極的な取組が多く認められたことから、特筆すべき実施状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・大学の知的資源を活用し、地域住民の健康・福祉の向上のための各種健康教育事業や相談事業、資格・免許保持者等に対する講習会、シンポジウム等に積極的に取り組んでいることを高く評価する。
- ・平成19年度に開設した不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、学生による県大子どもサポーターの派遣事業、キャンパス・スクール事業、教員対象研修事業及び相談事業等、活発な活動が行われていることを高く評価する。

- ・平成20年度に糖尿病看護認定看護師教育課程の認可と併せて看護実践教育センターを設立し、認定看護師の養成を中心とした看護実践教育を実施している。
- ・「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業」が、内閣官房・内閣府の平成20年度「地方の元気再生事業」に選定されており、田川地域の活性化に積極的に取り組んでいる。
- ・平成20年度に第28回日本看護科学学会学術集会を開催し、全国から約2,700名の参加を得ている。
- ・平成21年度に開設した社会貢献・ボランティア支援センターにおいて、大学、学生及び地域が連携した社会貢献活動の支援を行っており、地域貢献に積極的に取り組んでいることを高く評価する。
- ・アジアの大学との学術交流に取り組み、新たに4つの大学と交流協定書、覚書を締結しており、交換留学生数が増加している。また、ウェブサイトについても、英語版に加えて中国語版及びコリア語版を開設しており、国際交流の推進に努めていることを評価する。

4 業務運営

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・法人化後、全教職員を対象とした大学改革セミナーを開催するなど、教職員の意識改革に積極的に取り組んでいる。
- ・教育研究組織の見直し、国際交流業務スタッフの配置等事務局体制の強化、任期制実施、教員個人業績評価の実施・改善等、運営体制の改善と人事の適正化に努めている。なお、教員個人業績評価については、制度の目的に沿った、より適切なものとなるよう改善を図られたい。
- ・ヒヤリハット報告に基づく実習事故防止の対策、感染症予防対策、学生の健康管理の強化等、安全管理体制の充実に努めている。

5 財務

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施するとともに、自己収入の増加の取組において目標を大幅に上回る実績をあげており、特筆すべき実施状況であると判断し、5と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、数値目標を大幅に上回る収入実績をあげていることを高く評価する。特に平成21年度以降は、大型の教育等に関する外部資金の獲得により、それまでの実績を大幅に上回る収入を得ている。
- ・時間外勤務縮減の取組や、退職教員（教授）の後任を講師等で補充するなど、人件費抑制に努めた結果、数値目標を上回る実績をあげている。

6 評価

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価の実施・公表及び外部評価機関の評価結果の大学運営への反映等、厳正な評価の実施と評価結果の活用に努めている。

7 情報公開

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ホームページの改訂、情報管理体制の整備、個人情報保護規程の制定等、情報公開の推進に努めている。